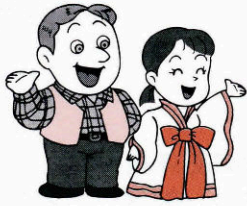


日韓友好 少年少女の船体験記

(抜粋)



国際社会に対応できる人材育成を目指し、毎年派遣される日韓友好少年少女の船。今年も三隅町から、11名の小中学生が韓国へ旅立ちました。

歴史教科書問題や靖国神社参拝問題などにより、日本と韓国の関係が難しい時期で、残念ながら韓国の小学生との交流は中止となってしまいましたが、派遣された生徒・児童たちは、韓国の文化・歴史を目で耳で肌でふれ、多くのことを学んだようです。

日本から韓国へ

浅田小六年 南部 智也

「ボーン」

という音とともに、下関港をはなれていく僕たちの船は、日本から一番近い外国、韓国へと旅立ちました。

一日目、二日目は、韓国の文化や歴史などを見学しました。とくに、大きな山がいくつも並んでいるのを、初めは何だろうと不思議に思いました。それは山ではなく人の入ったりつばな墓でした。その墓の中からは、王冠、ベルト、石をけずったかざりなどがたくさん見つかったそうです。そのかざりは、社会で勉強した弥生時代の玉に似ていました。

話をした韓国のバスガイドさんは日本語がペラペラで、とてもびつくりしました。

「日本から来るお客さんの話を聞いたり、ガイドをしたりするから、すごく勉強をしたよ。」

と言っていました。勉強するのは大変だけど他の国の言葉がペラペラしゃべれたらいいなと、ガイドさんを見ていて思いました。

そして、いろんな国の人と友達になれたらいいなと思いました。

日韓友好少年少女の船

浅田小六年 大田 師美

一日目、釜山市内を観光した後、天馬塚と仏国寺に行きました。そして一番不安で、あまり乗りたく

なかった飛行機でソウルへ。タラップを上るときも、とてもドキドキしました。滑走路を走り始めて、離陸する時は不安があったけど、楽しかったし、雲の上からの景色は最高でした。

二日目、午後からの民族村の見学では、昔の王様はとても立派な服を着ていたんだと思いました。それと、こふんのつくり方もわかりました。

それから、南北展望台に行きました。大きな川があり、向こう岸が外国なんて、ちよつと信じられませんでした。

少年少女の船に参加して、不安もありましたが、友達もたくさんできて、韓国のいろいろな所を見ることができました。

こんなに近い国なので、もっとお互いの国のことを知り、仲よくなればいいと強く思いました。

すばらしき旅行

明倫小六年 笹原 秀介

この旅で、僕には大きな目的がありました。それは、マナーをちゃんと守って行動すること、韓国の歴史にたくさんふれてみることにたくさんさんの友達をつくることです。

まず韓国の歴史にふれました。お寺は同じような神殿が何個も何個もありました。そこで気付いたことがありました。日本ではおさいせんを投げて入れるけど、韓国ではゆつくりさいせん箱に入れるということでした。ならわしは似

ていても、そのやり方が少しずつ違うんだということを感じました。そして、友達づくりについては、いっしょに旅をした少年少女の船の人と船の中やホテル、見学先でいろいろ交流ができ、友達がいっぱいつくれました。

この日韓友好少年少女の船では、たくさんさんの思い出とたくさんさんの友達ができて、多くのことを学ぶことができました。これをこれからの学校生活に生かして新しい自分を見つけていこうと思います。

韓国のひみつ

明倫小六年 松本 亜弓

韓国は日本に一番近い国です。でも、食生活や歴史はどうなのだろう。私はわくわくしながら韓国に出かけました。

龍頭山には、イースシンの像がありました。豊臣秀吉の時代に、韓国の英雄になった人で、韓国のシンボルとなっているそうです。その像は、敵が攻めてこないように南の方を見張っていて、南には対馬が見えるということでした。

仏国寺には門があり、その門には善い人か悪い人か分かる神様がいるそうです。私は門をドキドキしながらぐぐりました。

そして、南北統一展望台を見に行きました。38度線を境にして戦争がおこり、北と南に分かれて離ればなれになった家族が大勢いるそうです。私は家族がばらばらになって、かわいそうだなあと思っ

ました。

韓国の人々はやさしくて、積極的なという印象を、私はもちました。また機会があればぜひ韓国に行きたいと思いました。

日韓友好少年少女の船に参加して

明倫小六年 針谷 優紀

韓国の歴史・食文化を目で見て聞いて味わったら、日本とは違っていたいろいろなことを発見しました。

例えば、38度線に分かれて始まった戦争のことです。それによってたくさんさんのぎせい者がでて、会いたくても会えなくなってしまうそうです。家族に会えないこと、それがどんなにつらく悲しいか改めて考えさせられました。

ビルや家は日本と同じでも言葉はひとつも知らない国で、自分の言いたいことの半分も伝わりません。いつもと違う景色。ビルはほとんどないけど自然に恵まれたあたたかい三隅。大好きな私の故郷三隅を韓国の人に伝える、そして私の身体いっぱい韓国を感じる、それが私の目標でした。

近くて遠い国、韓国。ハングル文字も読めなくてわからなかった五日間。でも、韓国へ行ってわかりました。故郷三隅のよさと、韓国らしさが。お互いの良いところをたくさん伝え合っていきたいと心から思います。